

よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信

六号
2007.4

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2007年4月1日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel.Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

シリーズ 絵金百話

第五話 すれ違う愛



白描画 芝居絵の顔
香我美町絵金資料館所蔵

INFORMATION

☆第十二回 高木酒造酒蔵開放

年に一度のお客様感謝デー。酒蔵見学、試飲を無料で行います。話題の宇宙酒をはじめ、こだわりの大吟醸しずく酒や純米吟醸、おり酒、ゆず酒など「豊の梅」の主な商品をご用意。粕汁、おり酒饅頭、味噌田楽などもございます（一部有料）。皆さまお誘い合わせの上、是非お越し下さいませ。

日時 四月八日（日）午後一〜三時
場所 国道五五号線沿い赤岡町役場より約五〇m南
ごめん奈半利線「あかおか駅」より徒歩五分
駐車場 高木酒造事務所横・赤岡町役場駐車場
電話 ○八八七五五一八〇〇
参加費無料 ＊なるべく御予約をお願い致します。

☆第五十一回 どろめ祭り

日時 四月二十九日（日・祝）午前十時〜午後三時
場所 赤岡町海浜 ＊小雨決行
駐車場 商工会館・新、旧漁港船溜り周辺ほか
電話 香南市商工会（○八八七五四一三〇一四）

☆芝居小屋「弁天座」ついに完成！

弁天座はもともと大正年間にこの地に建てられた芝居小屋で、美空ひばりをはじめとする昭和の名優たちが数多く公演を行ったことでも知られています。残念ながら当初の弁天座は昭和四五年の台風により大壊し、その後は農協の集荷場となつて年に一回、絵金歌舞伎伝承会が歌舞伎公演を行っていました。この場所が今夏、花道や回り舞台、空井戸などを備えた本格的な芝居小屋としてよみがえります。絵金歌舞伎伝承会による新たな舞台での公演、どうぞお楽しみに！

日時 七月二十一日（土）、二十二日（日）
午後五時〜 ＊絵金祭当日
演目 「浄瑠璃式三番叟」、蘆屋道満大内鑑「葛の葉子別れ」、義経千本桜「道行」
交通 ごめん奈半利線「あかおか駅」より徒歩五分
駐車場 赤岡町保健センター駐車場・赤岡町商工会駐車場
電話 弁天座（○八八七五七一三〇六〇）

編集後記

やっと向かいの弁天座が完成！本格的な芝居小屋ながら、コンサートや映画等いろいろな使い方ができる施設となりました。

運営は土佐絵金歌舞伎伝承会を中心とする「弁天座運営委員会」が行います。貸館が主な業務ですが、住民ならではの活動を期待するとともに、絵金蔵も協力して、ともに赤岡を盛り上げていきたいと思っています。さて、今回の芝居絵は義経千本桜「鮎屋」。絵金歌舞伎今年の演目「道行」の前の場面にあたります。歌舞伎の内容は少し難しく感じるかも知れませんが、歌舞伎と蔵通信で少しでも身近なものになればと思います。

（蔵長・横田恵）

風、光、花の香り：大好きな春がようやくやってきました。海風の強い赤岡では、寒い思いをした分、春の気配が強く感じられるようです。今回は春にちなんだ作品をとりあげました。もともと、さまざまな角度から絵金を楽しんでいたきたい：そんな思いからページを増やし、おまけコーナーを新設しました。これからは絵金の新たな側面をご紹介します。きたらと思っています。ご意見、ご感想お待ちしております。

（副蔵長・福原優子）

〔絵金蔵〕

開館時間 午前9時〜午後5時
（入館は午後4時半まで）
観覧料 大人500円、高校生300円
小・中学生150円
（15名以上の団体は各50円引き）
休館日 毎週月曜日
（月曜が祝日の場合は火曜）
12月29日〜1月3日



絵金蔵の三つの使命

年に一度 絵金の文化を
：絵金の文化を
伝承 守るため
：次の世代へ
縁結び 伝えるため
：地域を超えて
世代を超えて

幕末土佐の芝居絵師・金蔵（通称・絵金）。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。



蔵のお・ま・け

～ なぞなぞチャレンジ 初級編 I ～

絵金蔵が収蔵する23点の屏風絵の中から出題します。描かれている芝居の題名、場面（段）名と人物名を当てて下さい。終わったら、厚紙に貼ってカルタにしてね。



(A)



(B)



(C)



(D)



(E)



(F)



(G)



(H)



(I)

- ① 花衣いろは縁起 (通称・二月堂良井杉の由来)、小唄 (こぎょう)
② 花上野言石碑 (はなのうえのほまれのいしづみ)、志度寺、坊太郎
③ 伊達競阿国戯場 (だてくらへおくにがひき)、栗 (土橋)、金五郎
④ 蝶花形名歌島台 (ちようはながためいかしまだい)、小坂部能、小坂部音近 (こさかべおとぢか)
⑤ 伊達競阿国戯場 (だてくらへおくにがひき)、栗 (土橋)、栗 (かさね)
⑥ 菅原伝授手習鑑 (すがわらでんじゆてならいかみ)、寺子屋、春藤玄蕃 (しゅんどうげんば)
⑦ 伊達競阿国戯場 (だてくらへおくにがひき)、栗 (土橋)、歌方姫
⑧ 浮世樹比賣稲妻 (うきよけひめいなのいなすま)、鈴ヶ森、幡随院長兵衛 (ばんすいいんちようへえ)
⑨ 花上野言石碑 (はなのうえのほまれのいしづみ)、志度寺、お辻

<ええ>



by コーヤン

絵金百話

第五話 一すれ違う愛一

よしつねせんぼんさくら

義経千本桜

延享4年(1747)11月、大阪・竹本座で初演された人形浄瑠璃。作者は二世竹田出雲、三好松洛、並木千柳。「古今の大当たり」(『浄瑠璃譜』)といわれた本作はこの前年に初演された「菅原伝授手習鑑」、翌年に書かれた「仮名手本忠臣蔵」とあわせて義太夫節の三代傑作といわれ、延享5年には歌舞伎でも上演されました*。

本作は題名に義経の名を冠した判官物ではあるものの、構想の中心は義経ではなく、平家滅亡後の後日譚という形をとっています。初段「大内」「北嵯峨庵室」「堀河館」、二段目「伏見稻荷」「渡海屋」「大物浦」、三段目「椎の木」「すし屋」、四段目「道行」「河連館」、五段目「吉野山」の五段からなる長編で、全体のストーリーは平知盛、維盛、教盛3人の運命に焦点を当て、ここにいがみの権太や、吉野地方に残る源五郎狐の伝説に基づく狐忠信など新たに創作した趣向が加えられています。

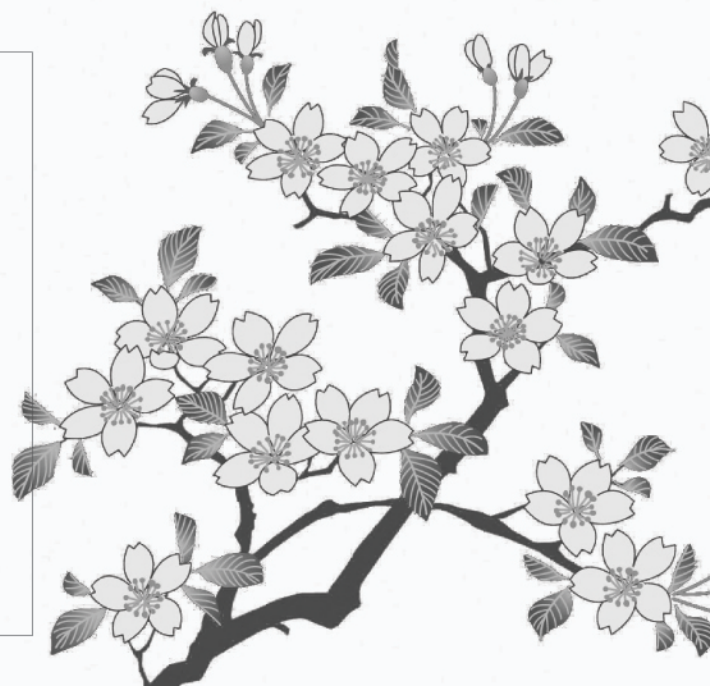
原作は千本桜で有名な奈良県吉野地方が舞台。吉野は大物の浦で風に流された義経が逃れた場所であり、義経が女人禁制の大峰を越えるため吉野の雪のなかで静御前と別れた話が伝わるなど、義経とゆかりの深い地です。

今日も人気の高い「義経千本桜」。絵金とその弟子たちの作品には「義経千本桜 すしやの段」(高知市・郡頭神社所蔵)、「義経千本桜 大物浦(舟弁慶)」(高知市・朝倉神社所蔵)などがありますが、今回は香我美町絵金資料館所蔵の絵馬提灯と赤岡町本町四区所蔵の芝居絵をご紹介します。

* 人形浄瑠璃と歌舞伎

人形浄瑠璃のために書かれた台本が歌舞伎で演じられることは現在、頻繁に行われていますが、もともと両者は起源を異にするものです。人形浄瑠璃は平安時代の声明、中世の平曲、説教節などの流れをくむもので、それが傀儡子(人形遣い)の芸と結びつき、江戸時代に入ってから今日の形となりました。一方、歌舞伎は念仏踊、風流といった室町時代の庶民芸能をその源とし、慶長年間(1596-1615)の阿国かぶきを機に庶民の圧倒的支持を得て次第に現在のようなスタイルとなったものです。

この両者を結びつけたのが近松門左衛門(1653)。浄瑠璃・歌舞伎共に数々の傑作を残した彼の代表作の一つ「国性爺合戦」が浄瑠璃と歌舞伎の交流第一作となりました。



絵馬提灯 義経千本桜

絵馬提灯（全12点）/紙本着色
65.0×83.0 絵金資料館（香我
美町）所蔵

「義経千本桜」の12場面を祭礼に掲げる絵馬提灯。本来、こうした絵は祭の後、焼き捨てられる消耗品でした。これらの作品は絵金が晩年、中風を患った後、左手で描いたものと伝えられています。



＜大序 堀川館の場＞↑
源義経の妻、卿の君の前で舞を披露する義経の愛妾、静御前。

←＜大序 堀川館の場＞
宮中へ参内した際、左大臣朝方に乱暴をはたらいたかどで義経の勘気を受け、泣いて忠誠を訴える弁慶。右は義経との間でとりなす静御前。



＜大序 堀川館の場＞→
源義経の妻で平時忠の娘、卿の君が実は頼朝名代の川越太郎の子であったことが判明。不仲となった頼朝と義経の板挟みとなった卿の君は自害する。かたわらで嘆くのは義経と静御前。



←＜大序 堀川館の場＞
頼朝の討手、土佐坊正尊の首を引っこ抜く弁慶。

絵金蔵 Q & A



何が見られるの？

絵金蔵では赤岡町内の各地区が所蔵する23点の芝居絵屏風を保存しています。これらの作品とあわせて、絵金の生涯、作品に関する様々な資料を展示、映像と合わせてご覧いただけます。

但し、収蔵庫の「蔵の穴」から見て頂く2点をのぞいて展示品は全てレプリカとなっています。それは、古くから年に一度の祭りの際にしか本物は出さなかった伝統を守りたい、という所蔵者の思いがまずあったこと、そしてすでに傷みの少ない屏風絵をより良い状態で後世に残すための選択でした。

絵金蔵では月に一度、収蔵庫の蔵の穴に入る本物の作品の展示替えを行い、また2ヶ月に一度、闇の中の絵金展示室の9点の作品（レプリカ）の展示替えを行っています。



ボランティアもいる？

当蔵の日常の業務を行うのは蔵長、副蔵長の2人。研修に出かけたり、数十名の団体の来館者を受け入れる際は、どうしても人手不足となります。そんなとき、力を貸して下さるのが地域のボランティアの皆さま。現在24人が登録し、受付やお茶のサービスなどのほか、蔵の面倒をわが子のようにみて下さっています。

当番以外の日にも様子を見に来て下さるボラボラさん（ブラブラ!?!）、その他展示解説や生け花、経理の補助をして下さる方々もいらっしゃいます。いまや絵金蔵の運営になくてはならない、強力なサポート軍団です。



市の施設？

絵金蔵は平成17年2月、旧赤岡町によって建てられ、現在は香南市の建物になっています。しかし実際の運営は市ではなく、市より管理者として指定を受けた絵金蔵運営委員会が職員2名を雇用し、施設・収蔵品管理から企画、グッズ開発・販売、会計経理ほか蔵に関わる全ての業務を行っています。

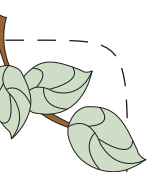
絵金蔵運営委員会は赤岡町内を中心とする地域の人々22名で構成。委員は開館前より8年間に及ぶワークショップに参加し町づくりに関わってきたメンバーで、本業のかたわら無償で「蔵」を育てる様々な仕事をしています。



ごぞんじでしたか？ 絵金蔵のティーサロン。

絵金蔵では土間ホール（入口すぐ）にてサロン営業を行っています。蔵の古材を使ったテーブルや椅子で、ゆっくりお過ごしいただけるスペースです。サロンのみのご利用も歓迎！ぜひご利用下さい。

コーヒー	200円
抹茶	200円
（干菓子付き）	
あめ湯	200円
（あられ付き）	
ラムネ	150円
お茶サービス	無料





よし つね せん ぼん さく ら
義経千本桜
すしやの段

二曲一隻屏風/紙本著色/141.0×139.0cm
赤岡町本町四区所蔵

壇の浦の戦いで平家が滅亡したあと、すし屋の弥左衛門は恩義のある平重盛の子、維盛を下男弥助としてかくまう。維盛を訪ねる妻若葉内侍と嫡男六代君は供の小金吾の奮戦により追手から逃れ、偶然にもすし屋弥左衛門の家で再会する。

そこに源頼朝の臣、梶原景時が現れ維盛の詮議をはじめる。弥左衛門は維盛らを逃すが、息子で〈いがみ〉の異名をとる小悪党権太が維盛の首と内侍親子を差し出す。怒った弥左衛門は権太を刺すが、実は首は維盛の身代わりとして用意した小金吾のもの、内侍親子は権太の妻子だった。権太の機知により詮議は切り抜けられたが、梶原景時が権太に褒美として与えた羽織に数珠と袈裟が入っていたのを見た維盛は、出家せよとの意を悟り、髪を切って妻子と別れ高野山へ旅立つ。すし屋弥左衛門は死を目の前にした権太と別れ、文覚上人を頼り旅立つ若葉内侍母子の供をし、妻や娘とも別れを告げる。

■ 首の正体は？

維盛とみせかけて、実は維盛の妻子をかばい討ち死にした家臣、小金吾の首。

■ 魚まるかじり！？

詮議そっちのけで魚をほおぼる家臣。これは生の魚ではなく、鮎のなれ鮎（酢を使わずご飯と魚を重ねて桶に漬け、発酵させたもの）。絵金はこうしたシリアスな場面の背景に、それを茶化すような人物をよく描いています。

■ 悪役の本心

維盛の詮議に来た源頼朝の臣、梶原景時。はじめは是が非でも平維盛を捕えようとする非情な悪役として描かれていますがこの段の結末では単なる悪人ではない、懐の深い人物であったことが明らかとなります。



■ 無償の家族愛のゆくえは…

平維盛の妻子と見せかけて、実は権太の苦衷を見かねて自ら身代わりを進み出た権太の妻小仙と息子善太。しかし、2人の思いは権太の死という悲しい結末を招くことに。後ろ手に縛られた手のあがくさまがこの後の悲劇を暗示するかのよう…

■ 大切な小道具

首が入れられた鮎桶。この桶は権太が母からだまし取った金の隠し場所となり、その桶がさらに首の入った桶と取り違えられるなど、物語の重要な局面で登場します。釣瓶鮎の由来となった釣瓶形が特徴。

■ 実は一番の迫力…
すし屋弥左衛門

恩義ある維盛の首を差し出した権太に怒り心頭、刀をとる父弥左衛門と、それを押しとどめる妻と娘。弥左衛門は筋肉隆々、力士のような姿に描かれています。実は彼、若い頃は盗賊を働いたならず者。息子権太の悲劇は、弥左衛門自身の悪業がその身に報いたのだという因果応報譚にもなっています。

■ 顔をそむける、そのわけは。

「維盛夫婦がきめ迄。いがみの権太が生捕ったり討取ったり」と首を差し出しつつも、顔をそむけ歯をくいしばるいがみの権太。妻子を差し出す苦しい胸中がその表情に表されています。

実在する釣瓶鮎

奈良県吉野郡下市町には義経千本桜のモデルとなったといわれる「釣瓶鮎屋弥助」が現在も残っています。店の庭には維盛の遺骨を納めたと伝えられる供養塔、お里姿見の池なども伝えられ、芝居の世界が今に息づいています。

下市町は高野山にも近く、都から落ちのびた人々が多く通った場所。千本桜で知られる吉野とも近く、この後の場面「道行初音の旅」では吉野が舞台となります。

土佐の平家伝説

高知県下では馬路村の平教盛屋敷跡、越知町横倉山の安徳天皇陵はじめ、本川村（現いの町）、池川町（現仁淀川町）吾川村（現仁淀川町）など各地に平家落人伝説が残されています。また、赤岡に隣接する香我美町には清盛の甥、教経が土佐沖を通過した際、荒波を鎮めるため放った矢が同町徳王子の宮の鳥居にささったと伝えられています。こうした伝承が芝居をより身近なものにしたことでしょうね。

4月の蔵の穴で本物を公開中。
鮮やかな衣装も必見です！

【参考文献】
『赤岡町史』赤岡町教育委員会 1980年7月
『高知県百科事典』高知新聞社 1976年7月
村上元三『現代語訳 日本の古典18 義経千本桜』学研 1980年9月
『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月
『日本古典文学大系99 文楽浄瑠璃集』岩波書店 1972年11月
『絵金展 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年
沼野正子『ほんとうはおもしろいぞ 歌舞伎 義経千本桜』汐文社 2005年11月

構図のユニシ

複雑に人物がからみあうこの作品。「すしやの段」のハイライトである場面を分かりやすく伝えると同時に、見る者をあきさせない臨場感に溢れています。その理由の一つが画面に深い奥行きを与えている透視図法（線遠近法）。ルネサンス期に生まれたこの技法は、十八世紀には浮世絵に取り入れられ、浮画と呼ばれて、奥行を強調した眼鏡画などと共にブームを巻き起こしました。画面に迫力と立体感を表わす構図。絵金の芝居絵の背景には、この技法が多く用いられています。